

令和 2年 8月12日

横須賀市長 上地克明 殿

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表 呉 東 正 彦

同 新 倉 裕 史

同 小 林 麻 利 子

同 今 野 宏

同 三 影 憲 一

第1 横須賀市の7月21日付要請について

現在日本国ではコロナ感染による入国拒否対象国の国民は、原則入国拒否で、特段の事情がある場合に、コロナ対策を条件として、入国を許可しています。その対策は、

- ①民間空港での入国時に、PCR検査を受け、検査結果が出るまで原則空港内のスペース又は検疫所の指定する施設で待機する。
- ②PCR検査で陰性の結果が出た場合でも、滞在場所まで、公共交通手段を使わずに移動し、14日間滞在場所で待機して外出しないこと。の2点です。

7月10日、米海兵隊が、北谷町の民間ホテルを、入国時の隔離施設として使用していることにつき、町が抗議し、その使用は7月18日に終了しました。

7月12日、羽田空港で検査、陽性結果判明前に、虚偽申告して民間航空機で岩国空港に移動していたことを14日防衛省が発表しました。（上記結果が出るまで待機、公共交通機関での移動禁止に違反。）

7月14日、横須賀でも入国時の隔離施設として民間ホテルが使用されているのではないかとの共産党からの照会に、厚生労働省が、検査結果が陰性の場合の14日間の滞在場所として、米海軍が使用していることを認める回答をしました。

7月15日共産党市議団との懇談で、中野参与は上記と同様の回答をしました。

7月17日の神奈川新聞でも、市は、陰性が確認された米軍関係者の、その後の待機場所と承知している、と説明しています。

7月19日午前、米海軍関係者が羽田空港に入国し、PCR検査結果判明前に米軍専用車両で市内の民間ホテルに移動し、同日午後陽性と判明し、基地内で医療管理下に移されました。

そして、市と外務省とのやりとりで、検査結果判明前の移動制限施設とすることを日米政府が了解済であったことが判明したが、市には情報提供はなかったとのこと。

7月21日 上地市長は厚生労働省、防衛省、外務省へ

日本の検疫ルールに従っていないことと、

民間ホテルを検査結果判明前の待機場所とすることが日米両政府の了解事項として行われたことの情報提供が市になかったことを指摘し、

①日本の検疫ルールを遵守するよう徹底して頂きたい。

②市内の民間ホテルを検査結果判明前の待機場所として利用するのはやめてほしい。

と強く要請され、それに対する国側の反応は市のホームページに書かれています。

そこで、市の上記要請に関して、以下のとおり質問します。

1、その後の国からの回答はありましたか。

2、検査が出るまで空港周辺施設で待機する日本の検疫ルールの遵守、市内の民間ホテルを検査結果判明前の待機場所として利用の中止、は実現、改善されたのでしょうか。

3、特に8月になってから多数出ている入国感染者の空港での検査の陽性判明時の所在地はどこなのでしょう。

(米軍から保健所への提供情報から、また保健所から民間ホテルに調査照会しては?)

4、市長要請に対する厚生労働省、防衛省、外務省の回答は民間ホテルの上記①と②の位置づけにつき矛盾があるのではないのでしょうか。さらにその点を強く指摘して下さい。

(そもそも、上記7月10日の北谷町の例、7月12日の羽田空港→岩国基地の例で、この問題ある事態が看取できたのではないのでしょうか。)

第2 米海軍横須賀基地関係者のコロナ感染者情報の公表について

3月末から非公表となっていた、米海軍横須賀基地関係のコロナ感染者情報が、7月21日、各基地ごとの感染者を発表されることとなったのも、自治体の国や米軍に対する働きかけがあつたのことと思います。

また米軍関係者が、米軍基地内に直接入国する場合、症状なき場合、PCR検査をしていなかったものが、7月29日に、入国後14日間の待機期間にPCR検査を受けることとなったことが、在日米軍と日本政府によって発表されました。

横須賀基地は8月7日現在の感染者は10名で、神奈川県内では最大であると同時に3日に2名、6日に4名、7日に2名、9日に6名と、相当な増加傾向にあります。

そして、ある程度基地広報部からも、情報発表がなされるようにはなっていますが、属性や、感染、入国経路や、措置内容等が明らかになっていません。

ただ、感染経路は、日本国内や基地外における感染者との接触より、日本の空港経由又は基地内の空港又は艦船経由の米国からの入国者が圧倒的に多くなっています。

そこで、市民の安全を守るため、市に対して、以下のとおり要請します。

- 1、米海軍に対しても、感染防止対策の徹底、この時期の日本への移動の制限や、基地外の行動の自粛を求めて下さい。特に、米国出国時のPCR検査は求められないのでしょうか。
- 2、横須賀基地等から公表される感染情報の内容を、横須賀市民のと同様により具体的に求めるとともに、その内容を、市のホームページにも載せたり、引用したりして下さい。

第3 原子力空母レーガン等の艦船の感染防止対策について

8月1日10時前に、原子力空母レーガンが、米海軍横須賀基地に帰港し、18時過ぎに再び出港しました。

4月22日付のニューヨークタイムズ及び23日付米国海軍協会のUSNIニュースは原子力空母レーガン乗組員に16名のコロナウィルス感染者が発生と報道しており、1名でも感染者が乗務したり、潜在的感染者が陽性となったり、米本国等から航空機等によって感染者が着艦等すれば、狭い密集した空母の中で大量の感染者が発生しかねません。

そうなれば、乗組員の生命や健康だけでなく、私達市民の生命や健康、さらに横須賀市周辺の医療体制にも重大な影響を及ぼしかねません。

従って、市民と乗組員の安全を守るため、米海軍と日本政府に、

- 1、約2ヶ月の長期航海によって、感染者が1名も発生しなかったかの情報開示を求めて

下さい。

2、下船した乗組員、乗船した乗組員はいなかったのでしょうか。

この時期は、乗組員の任期等による交代時期であり、入港前に、12号パースにバスが2台停車していたことが、明らかになっています。

いたとするならば、下船後、乗船前の隔離とPCR検査が行われていたか、確認して下さい。

3、米海軍横須賀基地の8月6日の発表によれば、3人が日本到着後の行動制限期間中に受けた検査で陽性が判明とされています。これまでの発表の殆どは、日本の空港での検査での陽性判明のケースで、日本到着後の行動制限期間中に受けた検査で陽性が判明というのは、基地内の空港又は艦船の入国と推測されるところ、横須賀基地関係で3人もがまとまって陽性となるのは、基地内の空港入国とは考えにくく、この時期に帰港した原子力空母レーガンの乗組員なのではないかを、確認して下さい。

また、9日の発表によれば、6人の感染者のうち、4人が医療スクリーニング中の検査で、2人は新型コロナの症状が出た後の検査で判明したとのことですが、この医療スクリーニングの対象者はどういう人でしょうか。2人についても艦船の乗組員は含まれていませんか、を確認して下さい。

4、もしその事実が確認されたとしたら、感染者拡大防止のため、速やかに帰港することを、強く求めて下さい。

5、11月ころの次の帰港時に市民の安全を守るため、上記日米合意とおり、乗組員全員の帰船後の14日間の待機期間と、その間のPCR検査を求めて下さい。